伊豆國伊豆海

下總國香取海

とれりとすれど、〇下略

〔催馬樂入文律　伊勢海一段、拍子十無二空拍子一〕

いせのうみの、いせのうみのきよきなぎさの、ゑほがひに、なのりそやつまん、かひやひろはん、玉やひろはん、

いせのうみのきよき渚に、今按に伊勢の海は清しといひならへり、後撰集に、忍びてかよひ侍りける人、今かへりてなどたのめおきて、おほやけの使に、いせの國にまかりて歸りまできて、久しくとはず侍りければ、少將內侍、人はかる心のくまはきたなくて清きなぎさはいかですぎけむ、續後拾遺に、仁和御時、大嘗會悠紀、伊勢國風俗歌をよめる、大友黑主、いせのうみのなぎさを清みすむつるのちとせの聲を君にきかせん、など猶多かり、實にゆきて見るに、他國の海よりは清き也、

〔金槐和歌集雜〕箱根の山を打いでゝみれば、浪のよるこじまあり、とものものに、此海の名はしる

やと尋しかば、伊豆の海となん申とこたへ侍しを聞て、

箱根路を我越くれば伊豆の海や沖の小島に波のよるみゆ

〔下總國舊事考四香取郡〕香取海又香取浦トモ云　今世ハ下利根川ト呼ベリ、古ヘノサマ、津ノ宮地方ヨリ西北ハ常陸行方郡、東北ハ鹿島郡マデ見渡シ、其間三里バカリノ一大江アレバ、此ニハ香取海ト云、江ヲ海ト云ハアタラヌコトナレド、漢土ニモ海ト云湖モアレバ、例ナキニモアラズ、彼ニハ浪逆浦ト云ヒシト見ユ、往時千葉忠常ガ下總ニ叛セシ時、源頼義命ヲ受ケ、兵ヲ常陸ノ鹿島ニ會シ、コレヲ討ズ、忠常海面ニ陣ヲ張リ、柵ヲ構ヘ、幟差物透間モナク夥シク立並ベテ云々ト、物ニ見エタルハ、此下ノ方小見川地方ノ事ナルベシ、後世洲渚次第ニ增加シ、數十ノ村落出來ヌレバ、今ハ南邊ハ一條ノ流トナリ、下利根川ト云ヘリ、北方ハ細流ニテ北利根川ト云、其間ハ田畝又入江トナレリ、